



2 中央市観光振興の視点

「実り豊かな生活文化都市・中央市」





2 中央市観光振興 6つの視点

基本理念に基づき、中央市の観光振興の推進を図るためには、それぞれの施策・事業を進める上で必要な、中央市独自の視点を明確にする必要があります。

このため、この基本計画では、中央市観光振興のための6つの視点を示します。

1 市民主役の視点

住んでいる人々が住むことに誇りを持ち、自分自身が訪れたいと思う地域でなければ、他の地域からの来訪は望めません。

市民が誇りや愛着を持ち、生き生きと暮らしている地域、また、来訪者を温かくもてなすことができる地域には、自然と多くの人々が集うようになります。

自らの地域を高く評価し、訪れてくれる人々を迎え入れ、交流することは住民にとって喜びです。

このため、行政ばかりでなく財団法人・NPO法人、民間など市民一人ひとりがともに参画し、ともにつくるという考え方が大切です。

また、市内には多くの優れた地域リーダーが活躍しており、こうした方々の先駆的な取り組みを活かすことも必要です。



与一公まつりに集う人々

2 「実り豊かな生活文化都市」を売り出す視点

中央市は、美しい田園風景が広がる一方、大型商業店、工業団地などもあり、自然と都市空間との調和が織りなす潤いと安らぎが感じられる、裾野の広い魅力を持つ地域です。**平成20年度「全都市住みよさランキング」では、住みよさ全国31位、利便度全国1位**という評価をいただきました。

このような特性を活かしながら、都市圏からのグリーンツーリズムや二地域居住の推進を起爆剤にして地域の潜在能力をフルに発揮させ、観光による交流人口の拡大を図ることで「実り豊かな生活文化都市」実現に向けさらなる進化を目指すという視点も大切です。



玉穂地区のショッピングセンター

住み良さ全国31位
利便度全国1位



農業＋観光（農業観光）を売り出す視点 3



スイートコーン
収穫体験

通年型のグリーンツーリズムや二地域居住の推進を通じて、交流人口の増加・定住人口の拡大などを推進するためには、“**上質な田舎**”である中央市の魅力を売り込み、癒しなどを求める都会の人々のための「**身近な癒しの空間**」としての価値を作り出す視点も必要です。

また、これからの中央市の観光にとって、農業の利用は不可欠です。地元の新鮮な農産物の提供や豊かな食材を活かした地産池消の取り組み、遊休農地の有効利用などを通じ、観光と農業とが深く連携して、新たな魅力をつくり出すことが重要です。

上質な田舎
身近な癒しの空間

PR

東京都
など

女性の声を活かす視点 4



女性の声を反映

観光客として消費に影響力をもつのは女性です。また、観光地で観光客に接する機会を多く持つのも女性です。

女性のニーズ、そして女性の知恵や感性、もてなしの心、さらに男性と異なる女性ならではの視点などを活かすため、女性に企画段階から参画してもらい、より広いアイデアを積極的に取り入れるなど、女性の視点を反映させることが必要です。



5 観光資源を生み出す視点

自然景観などの観光資源を消費するような従来型の観光事業のあり方は見直されつつあります。観光資源を保護・保全しコミュニティ活動に積極的に参加するなど、地域と連携した観光地づくりによる新たな観光事業への変換が求められています。

また、既存の観光資源に多種多様な産業などを組み合わせ、付加価値をつけた新たな観光資源を作り出す取り組みも必要となります。

既存の観光資源

+

産業

保護・保全



粘土節
(市指定文化財)

6 観光資源を活かす視点

中央市には、国指定の重要文化財2点、県指定文化財4点を含む34点もの指定・登録文化財があります。

また、**山の神千本桜**に代表される隠れた桜の名所や、甲斐源氏の一族で平安時代から鎌倉時代にかけて当地域を治めた**浅利与一公墓所**など、市外に誇れる名所・旧跡がたくさんあります。

これら名所や文化財を、ウォーキングやトレッキングなどの軽スポーツと組み合わせ、知的好奇心+健康志向などニーズに即した付加価値をつけるなど、既存の資源の有効利用を図ることができる視点も必要です。

文化財
名所・旧跡

+

ウォーキング
トレッキング



山の神千本桜
トレッキング



歓盛院 木造薬師如来坐像 (重文)



浅利与一公墓所 (県指定文化財)



八幡穂見神社本殿 (県指定文化財)



玉穂地区 乙黒桜